

会社の人間関係が良くなる ペップな社長の ペップトーク通信

2022年4月号 vol.4

【相手にとってのペップトークを考える】

ペップトーカーとしては意識的にペップな言葉がけをしていきたいものですが、その時に考えておきたい大切な事があります。

それは言われた相手がどのように捉えるのか？ということ。

「お前なんかやめてしまえ！」というのは、大抵の人にはプッペトークですが、このように言われた方が発奮する人もいます。

ここにコミュニケーションの難しさがあります。

言った側は、相手のために想って。

こう言ったら相手は分かってくれるだろう。

こう言った方が頑張ってくれるだろう。

このように思って言っている。

もしくは無意識にそう思っている。

ここでポイントがあります。

意識して<プッペトーク>をしている場合、これはいわゆる「叱咤激励」というものになります。相手を想って厳しく言っている。甘い事を言う方が相手のためにならない。こういう想いがあってのプッペトーク。

この場合、言う側の理屈・想いが相手にも伝わっている場合、言葉は<プッペ>でも相手にとっては《ペップトーク》になる事があります。

厳しい言葉でも「これは自分の為を想って言ってくれている。その期待に応えられるように頑張ろう！」このような場合は、相手にとってペップトークになっています。

ところが言われた側がそう受け取れない場合は、相手を凹ませてしまう<プッペトーク>になります。

大切なのは相手との間に信頼関係があること。言った側が思った通りに相手が受け取っているか？という事。

ただ、人は自分が良いと思うことは他人にとっても良いと思いこんでしまうという癖があります。お互いにとって良いコミュニケーション、相手のやる気を引き出す言葉がけをするためにはこう言ったら相手はどのように受け取るのかな？ということを考えてから言葉にしたいですね。